



いわき

意和氣の**心**と**心**で**チャレンジ!**

Chance Change Charge Challenge

由利本荘市立岩城中学校

No. 35

平成29年10月20日

少年非行防止・防火弁論大会 『最優秀賞』



16日(月)、第34回由利本荘市中学校少年非行防止・防火弁論大会が、由利中学校を会場に開催されました。本校からは「少年非行防止の部」に3年の***さんが

出場し、表現豊かに発表してくれました。見事、最優秀賞に輝きました。弁論の内容を以下に掲載しました。「あなたが壊れてしまう前に」と題し、**さんの体験や考え、揺れるこの時期の気持ちなどを豊かに表現されたすばらしい内容です。

あなたが壊れてしまう前に

岩城中学校3年 ** **



「孤独」「不安」…言葉ではうまく言い表せない思いに苦しんだことがある人はいないでしょうか。今、まさに、逃げ出したくなる思いで悩んでいる人はいないでしょうか。

そういう私は、一時期、言いつれぬ不安に押しつぶされそうになったことがあります。理由はありません。というより、今でも分からないままです。私の周りには、楽しくおしゃべりできる友達も、温かく見守ってくれる家族もいました。特別、いじめられていたり、いさかいがあつたりするわけでもありませんでした。それなのに、ただ自分が孤独であるような気がして、漠然とした不安に駆られていたのです。今思えば、「何なのか分からない」それが不安の原因で、起こり得ない何かにおびえていただけだったのかもしれない。そして最近、これは私だけが特別なわけではない、誰だって抱えている感情の一つかもしれないと思うようになりました。そう思えるようになったのは、ある出来事がきっかけでした。

皆さんは覚えているでしょうか。2年前に起きた「川崎市中1男子生徒殺害事件」のことを。私はその事件を知ったときの衝撃は今でも忘れられません。中学1年生の少年が3人の少年の手によって命を奪われるという悲惨な事件でした。なぜそのような事件が起きてしまったのか。なぜ少年が命を落とさなければならなかったのか…。

少年は、生まれ育った場所を離れたということもあり、新しい地域や学校にうまくなじめなかったようでした。親に対する反発、寂しさの裏返し、いろいろな思いが少年を非行に走らせ、不良グループへと引き込んでしまったのです。そうやって集まった人たちは、皆、寂しさや孤独を抱え、自分の居場所を求めた人たちなのだと思います。

でも、もしかしたら、そのように非行に走り、周囲に迷惑や心配をかけていた人たちは、ある意味、まだ外に発信するエネルギーを持った人たちなのかもしれません。それより悲しいのは、生きることをあきらめ、自らの命を絶ってしまう人の存在です。平成28年の秋田県の自殺者は263人にも上ったそうです。高齢者が多く占めるものの、未成年者もいるという事実を知り、私は言葉を失いました。原因は様々あるにせよ、そこまで追い込まれた人たちを本当に救うことはできなかったのでしょうか。

孤独や不安から私を救ってくれたのは、母の存在でした。母は、どんなときも変わらずに明るく話しかけ、そして私の話を聞いてくれました。私は話をすることで心が軽くなり、楽になっていく気がしました。私の心の居場所が間違いなくそこにあったのです。友達の存在もそうです。たわいのない話の中で、気が紛れることもあれば、友達と関わりながらいろいろ学ぶこともありました。そのような思いを抱いていたのは自分だけではないということにも気づきました。私の近くで私の孤独に寄り添ってくれる人がいたのです。

「相手に寄り添う」そして「互いに声を掛け合う」このことが人と関わって生きていく上で私は一番大切なことだと思います。人は弱い生き物です。誰だって孤独に押しつぶされそうになり苦しむことはあります。でも、自分だけがそう感じる、自分だけがそんな存在だと思っはいけないのです。孤独は人を永遠に支配するものではないのですから。

皆さん、周りを見つめてみてください。心の声に気づいてあげてください。元気がない人、下を向いている人。声は出せなくても、話を聞いてく

れるのを待っている人がいるかもしれません。寄り添い、話を聞いてあげられたなら、互いに傷つけ合うこともなく自分を大切にしていけるはずです。不安も孤独も、「あのときは何だったのだろう」と思える日がきつくとくると信じて。

税についての作文

平成29年度中学生「税についての作文」に、3年生の***さんが『税と向き合うこと』と題して作文を出品し、見事、本荘由利税務関係団体協議会長賞に入りました。10月21日(土)～22日(日)市民祭り(カダーレ)で展示されます。また、11月13日(月)に、本荘グランドホテルにおける表彰式で表彰されます。作文を紹介します。

本荘由利税務関係団体協議会長賞 3年 *** *

「税金」と言われても、私はいまいちピンときません。中学生の私が関わっているのなんて、消費税くらいなものでしょう。税金は大人が考えるもの、それが今までの自分の考えでした。しかし、本当にそうでしょうか。

私達が毎日使っている、学校の机・椅子・教科書、また学校の施設そのものにも税金は使われています。学校だけでなく、上下水道、警察や消防、道路までもが税金によるものです。住んでいる町、生活そのものが税金に支えられています。

大きな災害があった時の復旧費にも税金が使われるそうです。私の知っている道路でも大雨で山の斜面が崩れたときに、工事が入りました。その道が使えないと困る人も多かったし、私自身も崩れた山を見て不安があったので、とても感謝しました。もし、税金の制度がなければ、その道はずっと通行止めで、山肌は剥き出しのままだったでしょう。

また、国内だけでなく他国のためにも税金は活躍しています。「経済協力費」は、発展途上国の援助に使われているそうです。国際的に、私達日本の税金が役立っているというのは、とても誇らしいことだと思います。

しかし、そんな税金にもたくさんの問題があるそうです。

最近では、高齢化に伴って社会保障にかかる額がふくらんだり、税金を不正に免れようとする人もいるようです。なぜ、自分の納めた税金が国を支えている、という誇りを持ってないのでしょうか。将来は、自分も年金を受け取り、医療なども負担してもらおうことになるのに、今、社会を支えた分、自分も支えてもらうというのに。

こんなに身近にあるのに、「ピンとこない」ままでいいのでしょうか。本当に税金は、「大人が考えるもの」なのでしょう。税金を知っていくうちに、違う、と思うようになりました。中学生だからこそ、税金について知り、考えていかなくてはいけない、と私は思います。私達は、将来の

納税者です。自分たちのお金がどこに、どのように使われているのか知らないなんて無責任です。皆で「ここにはもっと必要だ」「ここはもっと減らすべきだ」と考えることが大切です。自分たちが社会を支え、より良くしていこうとすることで大人に限らず、私のような中学生でも税金との向き合い方は変わってくると思います。

税というのは、私達を支える重要なものです。皆のものだからこそ、公平に義務があり、誰もがサービスを受けられるのです。「税」というと、苦い顔をする人もいますが、社会のため、人のため、そして、何よりも自分自身のためにあるということをお忘れずにいたいと思います。

これからも、難しい問題が出て来ると思います。しかし、皆でそれを知り、解決策を考えていくことで、税と向き合っていくことができると思います。

本荘由利読書感想文コンクール

県推薦 3年 加賀谷 *

『「命」と「誇り」』
(書名:「晴れたらいいね」)

県推薦 3年 齋藤 **

『真実を見つめて』
(書名:「指の骨」)

推薦 2年 佐々木 *

『「幸せ」をかみしめて』
(書名:「電池がきれるまでの仲間たち」)

入選 2年 堀井 **

『命のつながり』
(書名:「鳥海山の空の上から」)

入選 1年 金森 **

『全てを狂わせる戦争』
(書名:「13歳の少女が見た沖縄戦」)

入選 1年 佐々木 **

『ひかりと私』
(書名:「チア・ダン」)

P T A 参観、懇談



17日(月)、後期のPTA授業参観、学年学級懇談がありました。1年生は、認知症サポーター養成講座を親子で受講し、2年生は、2Aが技術、2Bが理科の授業をし、3年生は、高校入試説明会を実施しました。

後期が始まり、時期的には勉強中心の生活になります。また、日が短く寒くなり、これまでと違う意味で心も揺れてくるが多くなると思います。何か心配なこと等がありましたら、気兼ねなく学校に連絡ください。

